

Ⅱ. キャリア形成を軸とした総合人間科の取り組み

中学1年生

生き方を探る —一人から学び共に考えよう—

石川久美・加藤容子
佐藤俊樹・長瀬加代子
藤田高弘

【抄録】 中学一年生総合人間科では「生き方を探る—一人から学び共に考えよう—」というテーマのもとで個人研究とフィールドワークを中心に活動を行った。総合人間科6カ年の中で、中学一年生は総合学習の基盤作りとして大切な年である。そこで、中学一年生では、すべての学年の総合学習において重要となる、自分で課題を設定して追究活動を行い、“人から直接学ぶ”ことを大切にして活動を行った。また、そのために必要なスキルを身につけることを目標とした。ここでは、実践報告とともに、中高6カ年のキャリア形成における総合人間科の役割について考察した。

【キーワード】 総合人間科 人から学ぶ 生き方を探る キャリア形成

1. はじめに

生徒を取り巻く環境は大きく変化している。その中でも、“人”“自然”との直接的な関わりの減少は生徒たちに大きな変化をもたらしている。知的好奇心や自然に対する感性が育つ以前に学校で教えられることによって学びに対して興味・関心を失っていく生徒もいる。人との関わりが苦手な学校などでの集団生活が困難な生徒もいる。さらには、大学まで順調に見えても社会に出てから、自分で探求するテーマや方法を見つけねばならない局面で立ち往生する者もいる。そこで、総合人間科では、自分で課題を設定して追究方法を考え、一年間の追究活動を通して、自分で考え主体的に学ぶ力を身につけることを目標としている。そして、知を統合する力を育て、6年後の卒業時に自覚的に自分の人生を選択していく力を身につけることを目的としている。

総合人間科6カ年の中で、中学一年生は総合学習の基盤作りとして大切な年である。そこで、中学一年生では、すべての学年の総合学習において重要となる、自分で課題を設定して追究活動を行い、“人から直接学ぶ”ことを大切にして活動を行った。また、そのために必要なスキルを身につけることを目標とした。

具体的な一年間の課題は次の通りである。

- ・自分の興味・関心を掘り起こし、追究する力を身につける
- ・社会の中の自分を考える
- ・人から学び考え、主体的に学ぶ
- ・フィールドワークの交渉、手紙での依頼、礼状の書き方を身につける
- ・フィールドワークの目的地まで公共交通機関を利用し

て安全に行く方法を身につける

- ・興味・関心のある人に質問し、聞いた内容をまとめる力を身につける
- ・人から学んだことを発表し共に考える
- ・総合人間科を通して学んだことを集録にまとめる
- ・これからどのように生きていくのかを考えはじめる

2. 活動内容

*前期

- | | | |
|-----|----------|------------------------|
| 第1回 | 4月16日(金) | オリエンテーション・保護者へのインタビュー |
| 第2回 | 4月22日(木) | 友人へのインタビューとその紹介 |
| 第3回 | 5月20日(木) | 保護者・実習生・卒業生へのインタビューの準備 |
| 第4回 | 6月3日(木) | 保護者・実習生・卒業生へのインタビュー |
| 第5回 | 6月17日(木) | 興味・関心のあることを調べる① |
| 第6回 | 7月1日(木) | 興味・関心のあることを調べる② |
| 第7回 | 9月9日(木) | フィールドワーク準備① |
| 第8回 | 9月30日(木) | フィールドワーク準備② |

*後期

- | | | |
|-----|-----------|-----------------------------------|
| 第1回 | 10月14日(木) | フィールドワーク準備③ |
| 第2回 | 10月28日(木) | フィールドワーク準備④ |
| 第3回 | 11月11日(木) | 名古屋大学 大学院教育発達科学研究科・教育学部の場正美先生特別講義 |
| 第4回 | 11月18日(木) | フィールドワーク |
| 第5回 | 11月25日(木) | フィールドワークまとめ・発表 |

- 第6回 1月20日(木) 研究集録執筆①
第7回 2月3日(木) 研究集録執筆②
第8回 2月17日(木) 高3から生き方を学ぶ
第9回 3月10日(木) 小論文

3. 生徒の取り組みの様子

(1)保護者へのインタビュー

最初のオリエンテーションで総合人間科の目標と一年間の活動内容を説明した後に、授業参観で来校していた保護者へのインタビューを行った。ここでは、質問の内容を考える時間が短かったため、深い質問はできなかったが、次の感想になるように、入学して間もない中学一年生にとって、“人から学ぶ”ということの一端を感じる機会となったようである。

「この学校のこの学校にしかない“総合人間科”に興味をもっていたので、第1回目の総合人間科が楽しみだった。総合人間科では、“人から学ぶ”ということを中心とした授業だったが、保護者へのインタビューの時に、あらためて“人から学ぶ”ことの大切さを知った。私のインタビューした人が、こう言ったからだ。『まわりの人から好かれていて、なんでもチャレンジして、なんでも前向きに生活している私の父は、すばらしい人だと思っています。』この世界でたった一人しかいない自分の父のことを、私は思いだしてみる。私は、『何でもできて、一緒に楽しむところは楽しんで、あやまるべき時はあやまれて、しっかりした人だ』と思った。この時私は、この人から自分の父という人のすばらしさを学んだのである。“人から学ぶ”ということ、自分の気持ちを見つめてみると、私はインタビューをするだけで、大切なことを一時間という時間で学べたのである。“人から学ぶ”のは、本当にすばらしいものだと思う。

よく思い出してみれば、今こうして字が書けるのも、私の大好きなパソコンの操作方法も、通学する時の電車の乗り方も、人から学んだものなのだ。」

そして、次の感想にあるように、充実したインタビューを行うには、“良い質問をしないといけない”ということに気付いていった。

「いろいろ良いところを見つけるためには、まず、良い質問をしないといけないということがわかりました。前から考えておいた質問で良いと思っていたものには良い応えが返ってきたし、即席で作った質問には、答に困っていたからです。これからのインタビューでも、そういうところに気をつけながらやりたいなあと思いました。」

そして、このことを次の活動に生かしていくよう生徒に伝えて、あらかじめ質問を考える時間をとった。

(2)保護者・実習生・卒業生へのインタビュー

授業参観での保護者へのインタビュー、友人へのインタビューと発表という活動をしてきたが、ここでは自分

で選んだ興味・関心のある人にインタビューを行うという活動を行った。事前に質問を考えて深い内容を聞き取れる力を育て、11月に行う校外でのフィールドワークに備えることがねらいである。次のような紹介文を読んで生徒が話を聞きたい講師を選んだ。

①Kさん(保護者)

私は現在住んでいる町で男女共同参画推進委員をさせていただいております。男女共同参画社会とは？なぜ必要なのか。プランの作成の時に大切にしたこと、条例制定にむけてなどの内容をお話させていただきます。

②Iさん(保護者)

私の職業は、助産師です。病院に勤務しているわけではなく、地域に出て、仕事をしています。この職業にはとても満足しており、現在では生きがいになっていますが、中学の頃なりたかった職業はまったく違うものでした。どうしてなれなかったのか、では、なぜ助産師になったのか、また、助産師とはどんな職業なのかがお話できたら、うれしく思います。

③Sさん(保護者)

小学校の教員として勤めているときから約40年間、合唱(コーラス)の指導をしてみえます。現在もお母さんたちに合唱指導をされていて、児童会館で子どもたちの吹奏楽の指導もしてみえます。6月3日のために、わざわざ金沢から来ていただきます。

④H.Sさん(保護者)

3年間に渡ってPTAの広報紙を作り、アンケート調査を行ってきました。アンケートを行うときに注意すること、出てきた結果をもとにどのようにグラフにまとめるとよいか、その結果に対してどのように考えるかなどについてお話したいと思います。

⑤Aさん(名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程に在学中)(教育実習生)

私は、名古屋大学の大学院生です。大学院は大学の上にある教育機関で、大学で学んだ専門的な知識をさらに深めながら、研究を行う場所です。大学院では、与えられた知識だけでなく独自のテーマを持つことが求められます。大学教員や特定の研究者・専門家になりたいという人も、大学院を修了することが今では最低条件となっております。「研究者になりたい」「大学の先生になりたい」という人は、私のところまでぜひ来て下さい。ちなみに、私の専門は地理学です。「地理学って何だろう?」という人もお待ちしております。

⑥S.Sさん(教育実習生)

地球温暖化、オゾン層の破壊(はかい)・・・今、環境問題が大きな注目を集めています。でも本当に温暖化はいけないことなのでしょうか?本当に私達のせいなのでしょうか?私達のせいだとするとどうすればよいのでしょうか?今、騒がれている環境問題、特にエネルギー

問題、温暖化についてみんなと一緒に考えてみたいと思います。

⑦Oさん (教育実習生)

私が音楽大学に進学した理由は歌が大好きだからです。歌というものは万国共通であり、その人そのものだと思います。自分の歌声で人々の心を動かすような歌を歌いたい、ことばは通じなくとも歌が大好きという気持ちを伝えたい、という強い意志があったので音楽大学進学を決めました。大学でオペラの稽古をしているうちに普段とは違った自分になれることも発見でき、歌曲を学んでいるうちに日本語の美しさに驚き、歌の素晴らしさを再確認しました。幼少の頃から身近だった音楽に、生涯携わっていこうと思っています。

⑧Nさん (教育実習生)

8月6日 午前8時15分。

この日、この時間、みなさんは何をして過ごしていますか。

私は広島県出身なので、学校では週1回、平和について考える時間がありました。私が中学・高校で受けてきた平和教育を、できる限りお伝えしたいと思います。

名古屋大学文学部で英語学を勉強していますので、英語の魅力についてもお話したいと思います。

⑨K.Nさん (卒業生)

附属出身で現在は名大の法学部で勉強しています。ソフトテニス部のコーチもしてくれています。テニス部に入ったきっかけは、部活見学のときに、高校生の先輩がやさしく声をかけてくれて教えてくれたことだそうです。6年間のテニス部の活動の中で、常に心がけてきたことがあるそうです。このようなテニス部についての話の他にも、室長としてのクラス活動についても話が聞けます。(中2で一度生徒会役員になった時以外、すべて室長として活躍しました。何と合計11回の室長経験があります)

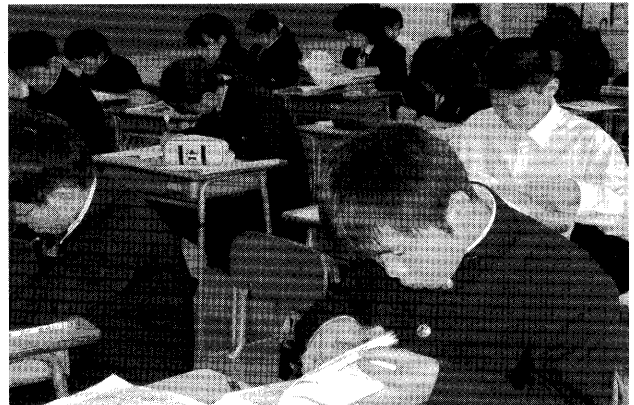
⑩M.Aさん (卒業生)

名大附の卒業生です。所属は名大の理学部で、数学を中心に勉強しています。数学が好きになったきっかけは、中1のときの数学の授業だったので、今回はそのこ

とを中心に話をします。附属では、授業の他にパソコンサークルや歴史サークル、生徒会もやっていたので、その話もできたらと思っています

少人数で話を聞くことができたこともあり、生徒たちは意欲的に取り組んでいた。小グループ内で、司会者、記録係、講師の送り迎えの係などの仕事分担も行い、自分たちで会を運営する練習とした。

前回の保護者へのインタビューに比べると多くの質問をすることができた。ただ、その質問の中には、質問内容が大きすぎて答えにくいものもいくつかあった。また、下調べがないために、質問に対する答に対してさらに質問することはなかなかできなかった。そこで、11月の学外での研究テーマとフィールドワークでのインタビューに向けて、自分の研究テーマを設定して下調べを開始した。



フィールドワークの下調べ

(3)フィールドワーク

自分たちで課題を見つけ、フィールドワーク先を考え、電話で交渉し、依頼状と質問書を送った。そして、自分達で行程表を作ってでかけて行った。小学校の総合学習でフィールドワークは経験しているが、自分で決めて交渉することはほとんどの生徒にとって初めての経験となった。フィールドワーク先は次の表の通りである。

A 組

研究テーマ	フィールドワーク候補先
裁判官について	名古屋家庭裁判所
裁判所の仕事について	名古屋家庭裁判所
ハ虫類の飼育について	東山動物園
ガンの治療法	愛知県ガンセンター
小学校の先生について	城北小学校
弁護士について	青山・井口法律事務所

B 組

研究テーマ	フィールドワーク候補先
歯科医師	磯貝歯科
イルカのトレーナーについて	名古屋港水族館
ギターの修理職(家)	小川楽器
時刻表制作者	名古屋市交通局 運輸区
警察犬とその訓練士について	中部警察犬訓練所
麻薬について	精神保健福祉センター

弁護士の仕事内容	青山・井口法律事務所	庄内川について	国土省 庄内川工事事務所
消防士について	海部東部消防組合消防署	パイロットについて	JAL 名古屋空港支店 航空部
子どもの病気について	ニコニコ子どもクリニック	楽器の部品を作っている人について	楽器の部品、職人 カネコ製作所
声楽科について	声楽家 自宅	小学校の仕事について	十西小学校
Flute を教える	中日ビル	ニュースの作り方	NHK名古屋放送局
ひな人形と職人の心	吉浜人形	弓道の矢の威力	松波佐平弓具店
弁護士の仕事について	弁護士会	気象予想するためには何を行っているか	本山气象台
ケーキのアイデア・コツ	ケーキ屋	流動層について	名古屋大学先端技術共同研究所
ガンの治療法	愛知県ガンセンター	スポーツについて	中日球団 スポーツトレーナー
ラジオディレクターの仕事と考え	FM・ダンボラジオ局	美容師になるまで	中部美容専門学校
動物の飼育	東山動物園	スポーツトレーナーの仕事	中日球団 スポーツトレーナー
警察のシステム	警察 愛知県警 刑事課	スポーツトレーナー	総合保健体育科学センター
ベル方程式について	名古屋大学 多元数理科学研究科	新聞記者の仕事について	中日新聞 写真部
歯医者について	みしな歯科	飼育員の仕事&哺乳類について	東山動物園
TV番組のつくりについて	東海TV	音楽活動について	ピアニスト
免疫のはたらき?	名古屋大学医学部 診療科	マンモス復元の最先端技術	岐阜県科学振興センター
ゲームをつくる	専門学校 HAL	ロボットについて	名古屋大学 工学部
名古屋城の歴史	名古屋城管理事務所	ピアニストの仕事について	ピアニスト
童話作家への道	童話作家	麻薬の密輸の取り締まりについて	名古屋税関
ケーキについて	ケーキ屋	通訳者にとって必要なこと	コングレ中部支社
小学校の先生の心がまえ	しまだ小学校	イルカと共演するトレーナー	南知多ビーチランド
白血病とその治療法	名古屋大学医学部 診療科	色素と研究者について	名古屋大学 情報科学研究科
警察犬訓練士について	名北警察犬訓練所	音楽の世界について	バイオリンの先生
地下鉄	地下鉄金山駅	本に囲まれた人たち	名古屋大学 中央図書館
CGグラフィック映像	専門学校 HAL グラフィックコース	ラジオ放送局の仕事	FM愛知編成局製作部
聴導犬について	日本ヒアリングドッグ協会	ピアノの先生について	名古屋音楽大学 入試広報室
獣医師の仕事について	覚王山獣医科病院	パティシエ	ハーブス グローウイング
聴導犬について	日本ヒアリングドッグ協会	自動車の売り方について	友松自動車
アニメ制作の面白さ	代々木アニメーション学院	俳優の生き方	劇団うりんこ
TVのプロデューサーとディレクターについて	東海TV	学芸員の仕事について	名古屋市博物館
警察犬訓練士について	名北警察犬訓練所	イラク支援	セイブ・イラクチルドレン・名古屋
昆虫の体のつくり	名和昆虫博物館	弁護士の仕事	中総合法律事務所
ディズニー事業について	ディズニーストアベイシティ店	カメレオンの飼い方	東山動物園
小学校教師の一日	鳴海小学校	栄養学について	名古屋大学医学部附属病院

(4) フィールドワーク発表会

次の感想にあるように、自分のフィールドワークだけでは、学べなかった事柄を学ぶ大切な機会となった。

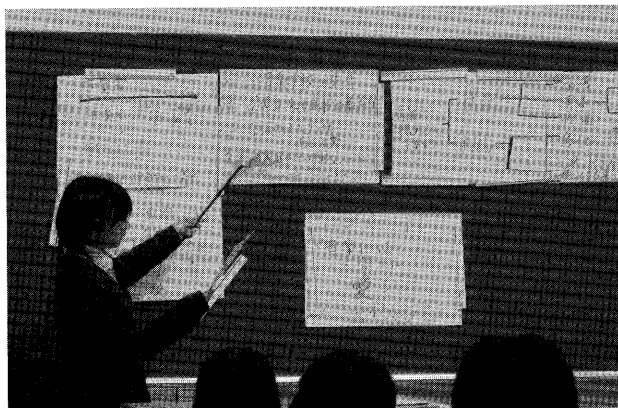
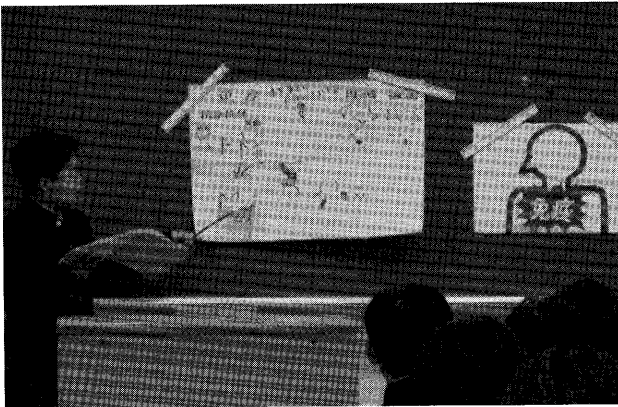
「みんなに共通していたことは、相手先の人が自分の仕事に誇りをもっていることだと思う。聞いてみて、他の仕事にも少し興味がわいた。これからの自分の将来について、じっくり考えてみたい。でも、楽しめる仕事がいい。」

「仕事をやっている人はその仕事が好きでないとやれないということがよくわかった。だから、自分も何か好きなものを作ろうと思った。」

「みんなまったく違ったテーマで調べていたが、うれしいことや、つらいこと、楽しいことなどの共通点もありました。僕は人の手助けをするトレーナーについて調べたけれど、弁護士や歯医者など、人を助ける仕事の人は、人のことを思っている工夫していることが印象的でした。」

また、次の生徒のように、他の生徒を参考にして自分の反省点を顧みて、次へのステップにする機会ともなった。

「みんな発表がすごく上手でキレーにまとめてあったので、良かったなあと思いました。司会もしっかりしていて、スムーズに発表会が進行したのではと思いました。私が一番印象に残ったのは、イルカのぬいぐるみを使った発表でした。ああいう発表の形は見ている人にも上手に自分の言いたいことが伝わりよかったです。私ももっと再現できたらなあと思いました。私は調べ学習が



少なかったと反省しています。今度は今回のことを生かしてできたらなあと思います。みんな本当によかったなあと思いました!!」

さらに、「静かに全部終わることができました。静かだと、発表していたときに言いやすかったです。」「聞き手の反応がなかなかよかったです。」という感想でも分かるように、聞き手としての姿勢が育ってきつつあった。このように、自分達で“学び合いの場を育てる”ことは6カ年の基盤として非常に大切なことである。

(5) 高3から生き方を学ぶ

中1と同じ「生き方を探る」というテーマで総合人間科を実践している高校3年生から話を聞き、今後の生き方を考える参考とした。次の高校3年生の生徒の紹介文からも分かるように生徒の進路決定に総合人間科が大きな影響を与えている。単に、進路決定のみでなく、人としての大切な考え方に影響しており、大きな意味でのキャリア形成に貢献している。H君のように、「僕は附属の申し子を目指す」という程、「自分が附属の特徴をうまく活用して成長できた」と感じる生徒も少なからずいるため、中1に話をしたいと依頼した生徒は即答で引き受けてくれた。そして、総合人間科の活用の仕方を伝授してくれた。さらに、「後輩に話ができて楽しかったです。このような機会をくれてありがとうございます」と言ってくれた高校3年生を見て、中一で担任していた生徒が大きく成長した姿を見ることができ、中高一貫の楽しみを味わうことができた。

① Kさん

進学先：名城大学 薬学部 医療薬学科

ずっと医療系に行きたいと思っていました。高1の総人で薬学部を訪ねた時、すごく興味をもちました。その後はもう薬剤師しか頭になくなりました。

6年間は毎日毎日を楽しんで、その日その日を過ごしていたからあっという間に過ぎてしまいました。だからみんな今を大切に、毎日たくさんの思い出を作ってください。私は苦しい事ほど、後で良い思い出になるって言葉が大好きです。

② Hさん

進学先：金城学院大学 人間科学部 現代子ども学科

中学のときは心理カウンセラーになりたいと思い、フィールドワークでは名大教育学部心理学科へ行きました。高1のときには、映画関係の仕事に興味をもちましたが、その後小学校の先生になろうと思い始めました。高3の夏休み頃から幼稚園の先生もいかなと考え始めて、指定校推薦申しこみの前日（正確には当日の夜明け）まで迷い続けて、小学校より年齢の低い子どもを教育する方が自分にあっていると思い進路を決めました。

家は遠いのですが、ずっとクラスで1番か2番に学校

に来ていました。学校が大好きなので学校を大事にできました。

③Mさん

進学先：名古屋大学 経済学部

- ・総合人間科の生かし方（進路について）
- ・名大附生であることの意味
- ・後輩へのメッセージ

④Hくん

進学先：学習院大学 文学部 史学科

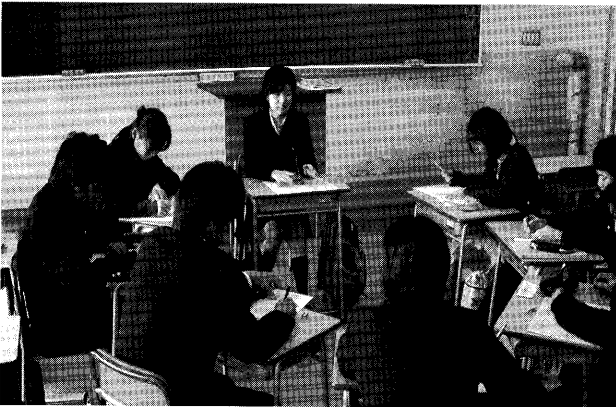
- ・附属に入ってよかったこと
- ・総人や特別授業の生かし方
- ・勉強はしなくてはいけない

⑤Yさん

進学先：愛知学院 薬学部 医療薬学科

中1では看護、中2で漢方薬、高1ではアニマルセラピーを調べるなど、ずっと医療関係に興味をもっていました。高2からは、看護、薬学、臨床検査技師のうちどれに進むか考え始めました。その後、薬学部を卒業すると臨床検査技師の資格がとりやすくなるということを知り、薬学部への進学を決めました。

みんなといろいろ話すことで進路を考えたので、総人がとても役に立ちました。



高校3年生から“生き方”を学ぶ

4. 成果と課題

総合人間科には、教科の枠を取り払い、生徒の興味・関心を掘り起こすところから学び始めるため、学ぶ楽しさを改めて感じ、何のために学ぶのか、学びの先に何があるのかを考える機会となるという大きなメリットがある。しかし一方で、次のような問題点もある。

- ①好きなことがある場合は取り組むきっかけをつかみやすいが、何事にも無関心な生徒では追究活動が進まない。
- ②生徒にとっても教員にとっても、それぞれが意義付けをしなければ意味が薄い。きちんとした意義付けをしないと作業だけを行うことになりマンネリ化する。

③当該学年の生徒と教員の力量にかかっている部分が多いため、取り組みの広さ、深さの格差が大きい。

④考えるためには知識がいるため、総合人間科が動機付けとなって各教科での取り組みが向上する生徒もいる。しかし、各教科との相互のフィードバックができない生徒もいる。

⑤個人テーマは、自分のテーマについては自分が最も詳しいという自信につながる。自分が追究しなければ進まないため、学びの主体が自分にあることが分かる。一方で、まわりに手助けを求めることができない生徒は進まない。

以上の問題点は改善して終わる事柄ではない。総合人間科を継続するにあたってずっと考えなければならない事項ばかりである。総合人間科も10年目を迎え、創立当時と比較して生徒を取り巻く環境も生徒の特性も変化してきた。これらの分析を常に行う委員会が定期的に開かれている訳ではないのが現状である。この点は今後検討し続けねばならない大きな課題である。

最後に、中高6カ年のキャリア形成についての総合人間科の役割について考察してみたい。

①に書いたように、部活でも趣味でもよいから何か継続できる興味・関心のある生徒にとっては、身近なところからそれらを掘り起こし追究活動につなげることができる。しかし、指導教員一人に対して20人の生徒がいるため、十分な掘り起こしができない場合もある。次の生徒にとっては、最後に高3から話を聞いたことが、興味・関心を掘り起こすことの大切さに気づく機会となったようである。

「初めて“関心”をもつことの大切さを教えてもらったのは、“興味・関心のある人へのインタビュー”でお母さん達に話してもらった時、でも、その時の私は話しを聞くだけで（一応質問したけど）関心の大切さに気づいていませんでしたが“なぜ関心をもつことが大切なんだろう？”と疑問に思っただけでした。一年間の終わりにH先輩の人生(!?)の話聞いた時・・・初めて関心をもつ大切さが分かりました。H先輩がエジプトに興味を持ちそれを自分自身で調べる・・・それが名大附の総合人間科のやることなんだと改めて思いました。」

また、次の生徒のように、一年の終わりに高3の話を聞いてやっと、問題点の②に書いた、自分にとっての総合人間科の意義づけを行うことができた生徒も少なくなかった。

「それまで私は、『なぜこの授業をやるのか？この授業を受けて何になるのか？』そんな疑問を持ちながら中途半端に総人の授業を受けてきました。けれどY先輩に、

この授業の何たるかを教えてもらい、総人を真剣に受ける気がわいてきました。事実、Y先輩は、総人をマジメに受け、医療関係の事を調べてきて、自分の夢、臨床検査技師になるという夢に大きく一步踏み出したのです。本当にすごいと思いました。あんなにがんばれることを私も見つけたいと思いました。Y先輩には、本当に感謝しています。(中略)この総人はたいへんな授業でした。でも、とてもすばらしい授業でした。本当に皆様に感謝！感謝！感謝！です。」

この生徒の文の最後には感謝の気持ちが表れている。昨年度高3の担任をして、卒業生が巣立つのを見送ったときにこの“感謝の気持ち”をもっている生徒は何か困難なことがあっても切り抜ける力をもっている傾向があると感じた。つまり、“自分のために人が何かをしてくれた”ことに対して“感謝”をすると、“いずれ自分も人(さらには社会)に恩返しをしよう”という発想をもつからである。自分がやりたいことを見つけようと追い続けることも大切であろうが、一方で、自分ができることをしようとする姿勢もまた大切である。

2004年2月に行われた本校研究協議会での金井先生(名古屋大学大学院教育発達科学科)の話にもあったように、生徒にとって、“モデル”となる人がいることはキャリア形成にとって大切である。次の生徒は多くの人と真剣に向き合おうと、自分の将来のモデルを考え始めることができたようである。

「高3の先輩にお話を聞いたときにすごく楽しそうな顔をしていました。それはきっと自分が好きで目標になっている事の話をしていたからだと思います。高3の先輩もフィールドワーク先の先生も自分の好きな事を話して下さっている時、本当に良い顔でした。みんな将来も違うし、種類も違うけど、“輝き”はみんな共通してもっていました。私も早く、輝いている自分を見たいと思いました。」

高3という“同じ制服を着た先輩”や“同じ部活の憧れの先輩”が話すことは、外部講師、保護者、教員が言うより遙かにメッセージが届きやすい。次の生徒たちも非常に真摯に受け止めている様子がうかがえる。

「将来なんてまだまだ遠い話だと思っていたが、そんなことはなかった。今まではまだ中1だし、今を楽しめればそれでいいと思っていた。しかし、その考え方は甘かった。もうすぐに夢を選択する瞬間は来ってしまうのだ。そう考えるとさびしくもなる。だから、私は今のうちにたくさんの夢を見たいと考えた。毎日の生活に希望を感じたいと思った。そうすればたくさんの夢の中から選ぶことができる。自分にないものが、きっと見つかるだろうと思った。要するに、柔軟な考え方が必要なのだ。自分の夢を一つにしぼるのは、今ではもったいなさ

すぎる。自分は音楽が好きだからその関係の仕事につきたいと今は思っている。だが、そのうちもっと好きなものが出てくると思う。だから、一つの夢にこだわり過ぎないことも大切だ。自分が今だっている理想の生き方は、本当にそうなりたいと心から思っているのか。それともただの憧れだけで終わってしまうのか。まだわからない。でもそれでいいのだと私は思う。これから先、多くの人に会うことになる。それとともに多くの生き方にも会うことになるのだ。その度に私は何かを感じ、何かを学んでいくのだ。そこで、感じたことが私の将来につながっていくのだろう。私は今まで真剣に将来の夢、生き方について考えたことなどなかった。今回このような機会があって本当に良かったと思う。」

「総合人間科をやっていて一番変わったのは、自分の夢や進路について、本気で考えたことです。前までは、夢とか進路は、高3の時に決めればいいやと思っていたんですが、総合人間科をやっていて、自分で自由なテーマを調べ学校を離れ、知らない人にインタビューしたり、それらをまとめたりすることで、夢とか進路とか考えて悩むこともありました。だけど、高3の話の聞いたら不安がなくなりました。その先輩は中1のころから、うっすらと夢や進路が決まっていたのですが、先輩は『総合人間科が、自分の夢や進路の道しるべになって、夢に近づかせてくれる』みたいなことを言っていました。やっぱり、5歳上の先輩に言われると不安とかは消し飛んでしまいました。僕は先輩が言っていたように総合人間科をやりながら、夢や進路を決めていこうと思います。

この生徒が言うように、『総合人間科が、自分の夢や進路の道しるべになって、夢に近づかせてくれる』存在となるよう私たち教員も手助けしていきたいと考えている。

(文責 石川久美)

参考資料

高3の生徒が中1に向けて作ったプリントである。

『附属の申し子とやら!』 ①

「附属の申し子」... それは、6年間の附属生活を最大限に活かし、自らの糧とすることができた者だけにのみ与えられる石塔ある称号である。
この度私が最初として完全には為しえなかった、「附属の申し子」への道を、私の6年間の附属生活として紹介したい。

(中1) 私はすでに、このころ、将来の夢を持って、「古代文明の研究者になる」これこそ、小学4年の時歴史の本を読んだ歴史に触れられて以来持ち続けてきた夢である。
学校の勉強とは全く違う、自分の勉強が出来る。古代エジプトの象形文字を覚えよう。
知り合った大学の先生の附へ 藤人のフィールドワーク。附属の授業を活かして親交を深める。
自分の興味のある分野をどこまで追求するか。もし、何となくがなげれば、TVで見たようなものとして終わる。何となくがなげれば、自分の分野をつづるための努力を惜しまない。好きはここがねじなる行動力だよ。

(中2) ②

古代エジプトについて、向から所敵なし。ますます古代世界にのめり込む。また、日本近代史にも興味。国粹主義。学校では生徒会活動。学校祭では生徒会の仕事と演劇出演の両方をこなすハードスケジュール。ババ717は7年間。

717の附属 ③

附属は、自分の好きなこと全部活かし、自分のペースで進める。でも、高校に入学したら、どうやら心が弱くなっている。
私の成績は見降下。70段階の順位は、60から70に落ちた。2月のテストで、60から70に落ちた。朝日新聞の「起死回生」に「500人中の6人に選ばれる。」
附属は、自分の好きなこと全部活かし、自分のペースで進める。でも、高校に入学したら、どうやら心が弱くなっている。
附属は、自分の好きなこと全部活かし、自分のペースで進める。でも、高校に入学したら、どうやら心が弱くなっている。

(高1) (高2) ④

高2から高3にかけての春休みに「見聞録(新世界)研究会」へ出席する日本代表を志願し参加。これは高2の新教科「見聞録」の中で紹介された企画への応募。世界の子ども6人に1人が教育をうけられず。僕がねばならぬ。という児童労働問題を、子ども目から見て解決法をさぐる目的で開かれた国際会議である。私は日本代表として選ばれ、開催地パリのリレンツへ。
附属の勉強がどれほど好きか。国際情勢への興味(友人からの影響)が結果。正に717が活かされたのである。
5月にリレンツへ。世界50か国の子どもたち200人が「見聞録」根絶のため、言葉の壁を乗り越えて討論し、計画書を作成。そして、リレンツ市内をマーチ。完璧な会議。
試験モドキ
トルコで古代ローマの遺跡を見た屈折した。古代ローマの社会をモデルとして現代問題を考察した。この思いから、古代ローマを学ぶことのできる学校の受取を決める。
受取は、一般入試ではなく推薦入試を出願。小論文と面接。試験会にすべてをかけた。

(高3) ⑤

小論文の題は「歴史の中で、時代によって価値の異なる事柄についてあなたの見え方」と「最近読んだ歴史に関する書物に対する考えを述べよ」。
トルコの政治家の思想について、と古典レポートに引用した。高2の春休みに、高2の春休みに、高2の春休みに。
附属の6年間の最大成果として、自分の力の全てを注ぎ、合格であった。
私は、長いおとど間の附属生活を終えて大学。という自らの分野を追求する場へ行くことしている。だが、私を「の道」へ連れて行ったのは附属学校で過ごした6年間の、その1日、1日である。
附属は、誰にでも活かしを奪え、次へのステップを用意してくれる場だ。しかし、その場を生かすも殺すも自分次第である。私は割合うまく、附属の特性を活用できたと思う。ただ、中学の時には、学校の勉強をなげざりしたことのあるし、免けた生活を送った(今でも)こともある。6年間の全てに合格点を奪えることはできず、それ故に私は「申し子」とはなれなかった。勉強をしなくてもいい。これからの717の5年間を生かすも殺すもあなた次第。私のこの話が、少しでも役に立つことを祈る。